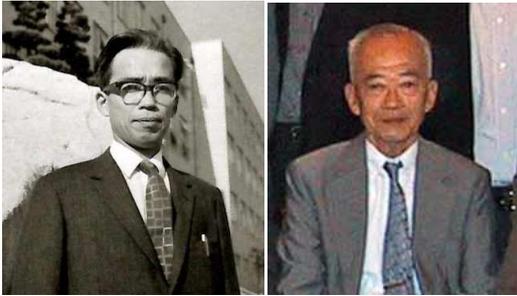


甲状腺外科草子 37

海兵の数学：沖原司朗先生

杉野 圭三

理科系志望の受験生にとって、数学の成績は今も昔も全てを左右する大きな要素である。中学・高校時代の数学を沖原司朗先生に担当していただいたことは大いなる幸運であった。



卒業時の沖原司朗先生（1972）、30年後の同期会（2002）

沖原先生は六甲学院第二期生で、海軍兵学校（75期）へ入学されたが、戦局は敗戦濃厚であり、卒業間際に終戦を迎えられたとのことであった。

海兵の教育の伝統は「五省」に良く表れている。先生の授業方針も同様で、真面目に根気よく勉学に励むことを指導され、宿題をさぼったり、虚言を弄したり言い訳をすることを一切許されなかった。

五省

- 一、至誠に悖(もと)る勿(な)かりしか
- 一、言行に恥(は)づる勿(な)かりしか
- 一、氣力に缺(か)くる勿(な)かりしか
- 一、努力に憾(う)らみなかりしか
- 一、不精に亘(わ)たる勿(な)かりしか

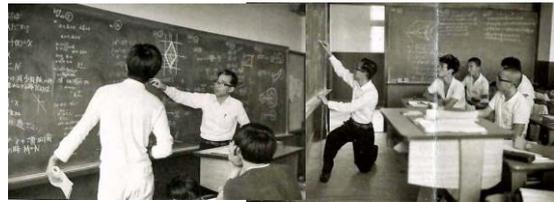


教育参考館（江田島、旧海軍兵学校）

授業態度の悪く、言い訳をする生徒には、昔ながらの海兵の伝統的指導（詳細は記載し

ない）も行われていた。我々の学校は、京阪神地区ではスパルタ教育で鳴り響いたものであり、海兵流指導ぐらいでは、PTAの保護者も全く問題とせず、却って親から感謝されるような風潮であった。

先生の授業密度は濃く、進行速度も速く、中学三年時には数Ⅰが終わり、数Ⅱに突入、高校一年で数Ⅲもほぼ終了するようなスピードであった。宿題も膨大だったが、授業では、難問の解き方を一方向だけでなく、別のアプローチでの考えも重要視された



熱い授業風景、「いいか〜」、「はい別解?」、
「これは、こう解くように！」

「はい、別解はないか?」と、良く質問され、回りくどいが独創的な解答方法も高く評価されていた。「いいか〜、これはこの様に解くように」、この「いいか〜！」が独特で繰り返されると耳から離れられず、何十年たっても未だに強烈な残響が焼き付いている。

厳しい指導の先生ではあったが、生徒の面倒見も良く、よく見ると実は目の奥の光は柔和で温厚な先生であった。引退後も、お元気で2002年の同期会にも変わりなく出席されていたが、2009年12月9日、突然ご逝去されたとのことである。

後輩に手術指導する時に、「いいか〜、ここはこうするように!」、「この術式アプローチの別解は?」、など僭越ながら先生の口真似を良くさせていただいています。

まだまだ質問したいことが沢山ありました! 僕の「別解」も聞いてください!

(一甲状腺外科医の徒然なる随想)

2022年7月28日